ハートツリープロジェクト第2弾

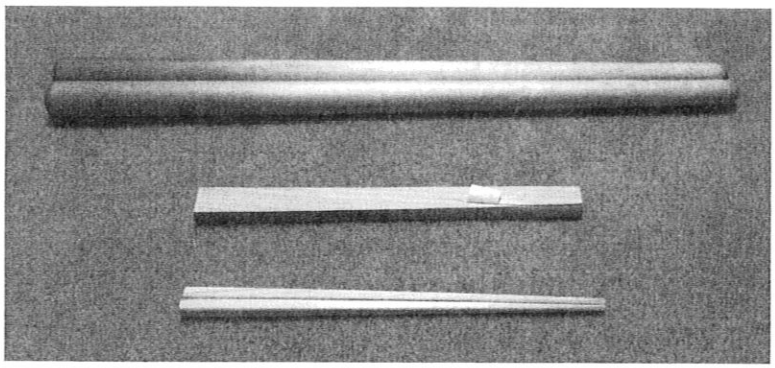
「ドンドコばし」で森を再生しよう！

折れたり、使わなくなった太鼓のバチを箸に再生して販売し、その売り上げを森の再生に活かそうというプロジェクトが始まった。取り組むのは、太鼓ユニット「AUN」の井上良平氏と、「AUN J-Classic Orchestra」の1stアルバム「和楽器でジブリ！」の製作プロデューサーでハートツリー株式会社代表取締役の服部進氏。「和楽器でジブリ！」が1枚売れるごとに、その5％を日本各地の里山再生の費用に活用しようと昨年始めたハートツリープロジェクトの第2弾だ。

ハートツリーでは、奈良県吉野郡で間伐された木を割り箸にし、その包装パッケージに広告をつけてナチュラルローソンに配布することを既に事業化しており、そのノウハウを活かそうというもの。折れたバチを箸に蘇らせるのは吉野の箸職人。再生した箸は、名づけて「ドンドコばし」。また、工賃と手数料を支払えば、蘇らせた箸にロゴや名前などを入れてくれるので、太鼓チームの記念品として、また物販としても利用できる。

使わなくなったバチを廃棄してしまうのではなく、自然に還そうと協力を呼びかけている。

（お）



（上から）使わなくなったバチ、それを製材したもの、仕上げの工程を経て再生されたドンドコばし

●問合せ先＝ハートツリープロジェクト事務局（担当＝年見、服部）☎03（6893）5551
info@heart-tree.com